

## 雪崩業務従事者レベル1 DACUM

下記の学習目的において、各ブロック内の文章を読む際は、以下の文脈で記載されていると考えてください。

\*レベル1コースあるいは各講義の終わりには、受講生は・・・ができるようになる。

コースの目標		関連付けられた学習目的					
		1	2	3	4	5	6
A	雪崩現象の理解	雪崩の形成に必要な積雪特性の説明	雪崩の特徴の記述と説明	雪崩の規模区分の記述と説明	運動特性の記述と説明	雪の破壊メカニズムの記述と説明	
B	雪崩ハザードの理解	人と施設に対する雪崩ハザードの説明	雪崩が日本に与える影響の記述と説明	雪崩危険度の区分と定義	業界が実施する雪崩安全対策の記述と説明		
C	雪崩地形の理解	雪崩道の識別とその特徴の記述と説明	雪崩地形の特徴の記述と説明	山岳地形において雪崩地形の区分を適応	安全なルート選択と雪崩地形における安全地帯の識別		
D	山岳積雪の特徴の理解	山岳積雪の形成についての記述と説明	雪の変態についての記述と説明	積雪内の重要な弱層についての記述と説明	積雪の空間的多様性と地形との関連についての記述と説明	時間経過に伴う積雪の多様な変化についての記述と説明	
E	気象データの収集と記録	気象定点での観測と記録	フィールドでの気象観測と記録	基礎的な気象概念の説明	気象情報の入手と適応		
F	積雪データの採取と記録	層構造の観察と記録	層の特徴と分類に係る観察と記録	雪温の計測と記録	積雪テストの実施と記録	積雪断面観察データをグラフ化	重要な積雪特性を特定

G	雪崩発生データの収集と記録	雪崩の規模区分の適応	雪崩発生状況の観察と記録				
H	雪崩ハザード評価に使用する要素と手法	積雪の安定性評価における重要要素の記述と説明	安定性とハザードの概念を使い雪崩ハザード評価の実施	気象および積雪の重要データに基づくコミュニケーション	可能性と結末、曝露と脆弱性、頻度と規模などを定義	雪崩のリスク・危険・ハザード・積雪安定性などの用語の定義や運用の違いを理解	
I	リスク管理手法の現場適応	リスク管理と安全行動の理論的根拠の記述と説明	ツアーの事前準備に係る記述と説明	ツアー中に適切なリスク軽減行動を適応	業務における重要なヒューマン・ファクターの記述と説明		
J	雪崩搜索救助を指揮	熟達した雪崩ビーコン搜索により1600㎡の範囲に埋没した2名に対して15分以内に対応	埋没者に対し、効果的なピンポイント・プロービングを実施	補助者2名に対し、埋没者への効果的かつ戦略的な掘り出しを指揮	状況把握、目撃者への聞き取り、本部への連絡など、プロフェSSIONナルとしての搜索救助の実施	組織的な搜索救助活動計画の構造を理解	
K	レベル1所持者の実務範囲	レベル1以後のメンターシップへの理解	専門職として継続的開発訓練について理解	レベル1所持者の役割と責任への理解			

\*それぞれの項目は、複数の座学やフィールドでの講習を通して構成されます。